

課題名	温州みかんのせん定方法(生産者、技術者のせん定)																																																							
成果の要約	せん定量が大きいと収量の伸びが悪く、果実の品質も劣った。																																																							
成績	<p>品質のよい、紅の濃いみかんを生産するため、せん定の程度と着色、品質について、生産者の代表2名、技術者1名の参加を得て10年間にわたって調査した。</p> <p>(1) せん定量の大きい生産者、A、Bおよび技術者のせん定葉率は高い時は、54～65%に達した。</p> <p>(2) せん定葉率の高い樹は、低い樹に比べて、伊木力系温州では全期にわたって収量の伸びが悪く、林系では前半に悪かった。</p> <p>(3) 1果平均重は、両系統とも、せん除葉率の高い樹で大きかった。</p> <p>(4) 果皮の粗滑とせん定との関係については両系統で傾向が異った。</p> <p>(5) 浮皮の発生は、せん除葉率の低い樹で少ない傾向が認められた。</p> <p>(6) 糖は、両系統ともせん除葉率の低い方が高く、酸含量では、伊木力系と林系で傾向が異った。</p> <p>(7) せん除葉率が高くても、亜主枝上に立枝の少ない樹は、立枝の多い樹に比べて果皮は滑らかで糖度も高かった。</p>																																																							
概要	<p>第1図 せん除葉率(伊木力系)</p> <table border="1"> <caption>第1図 せん除葉率(伊木力系)の推定データ</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>生産者A</th> <th>生産者B</th> <th>技術者</th> <th>試験場</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>47</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td></tr> <tr><td>48</td><td>220</td><td>100</td><td>320</td><td>100</td></tr> <tr><td>49</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td></tr> <tr><td>50</td><td>350</td><td>350</td><td>350</td><td>350</td></tr> <tr><td>51</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td></tr> <tr><td>52</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td></tr> <tr><td>53</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td></tr> <tr><td>54</td><td>220</td><td>100</td><td>300</td><td>100</td></tr> <tr><td>55</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td></tr> <tr><td>56</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td></tr> </tbody> </table>	年度	生産者A	生産者B	技術者	試験場	47	100	100	100	100	48	220	100	320	100	49	100	100	100	100	50	350	350	350	350	51	100	100	100	100	52	100	100	100	100	53	100	100	100	100	54	220	100	300	100	55	100	100	100	100	56	100	100	100	100
年度	生産者A	生産者B	技術者	試験場																																																				
47	100	100	100	100																																																				
48	220	100	320	100																																																				
49	100	100	100	100																																																				
50	350	350	350	350																																																				
51	100	100	100	100																																																				
52	100	100	100	100																																																				
53	100	100	100	100																																																				
54	220	100	300	100																																																				
55	100	100	100	100																																																				
56	100	100	100	100																																																				

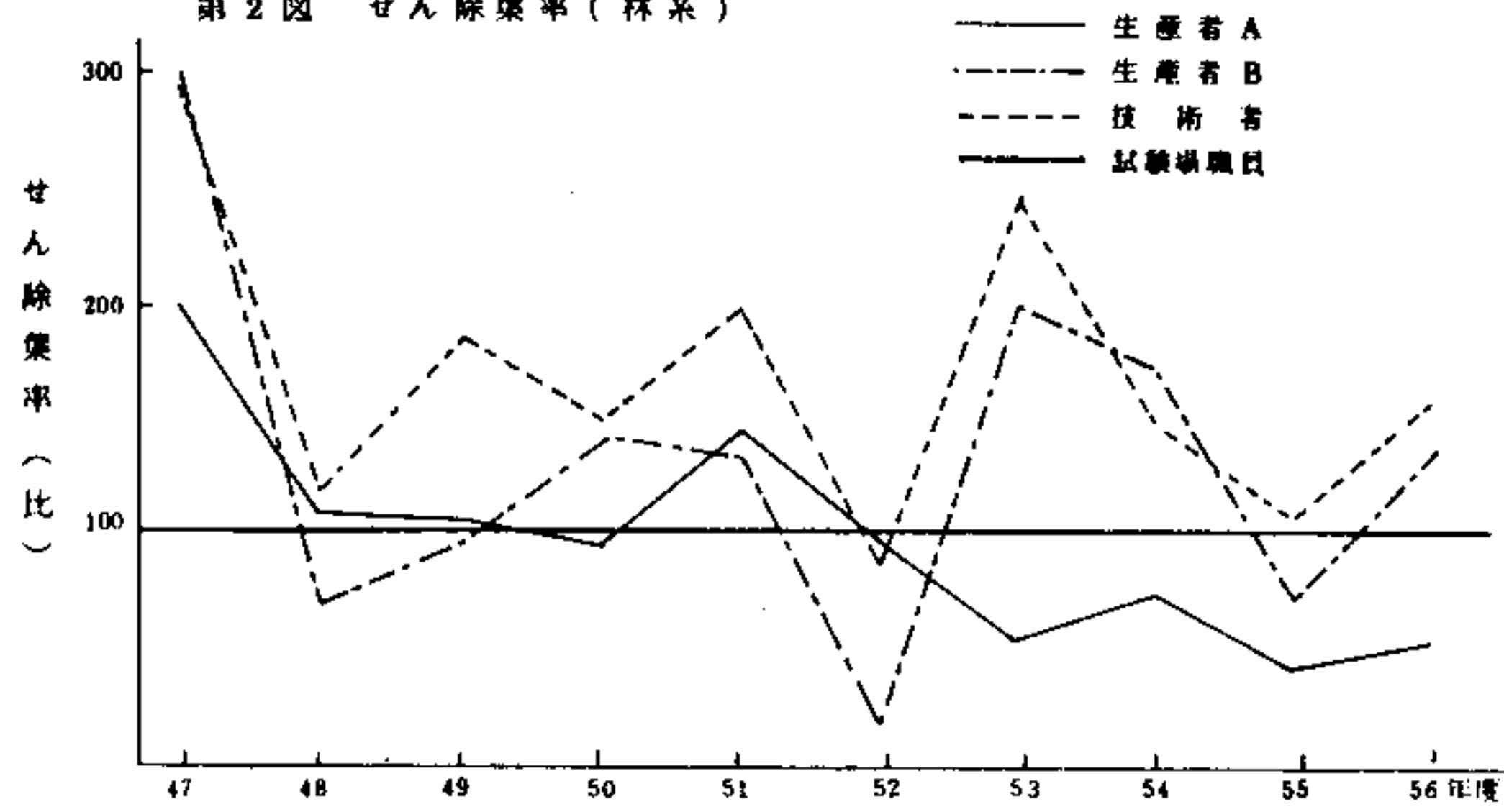
成

績

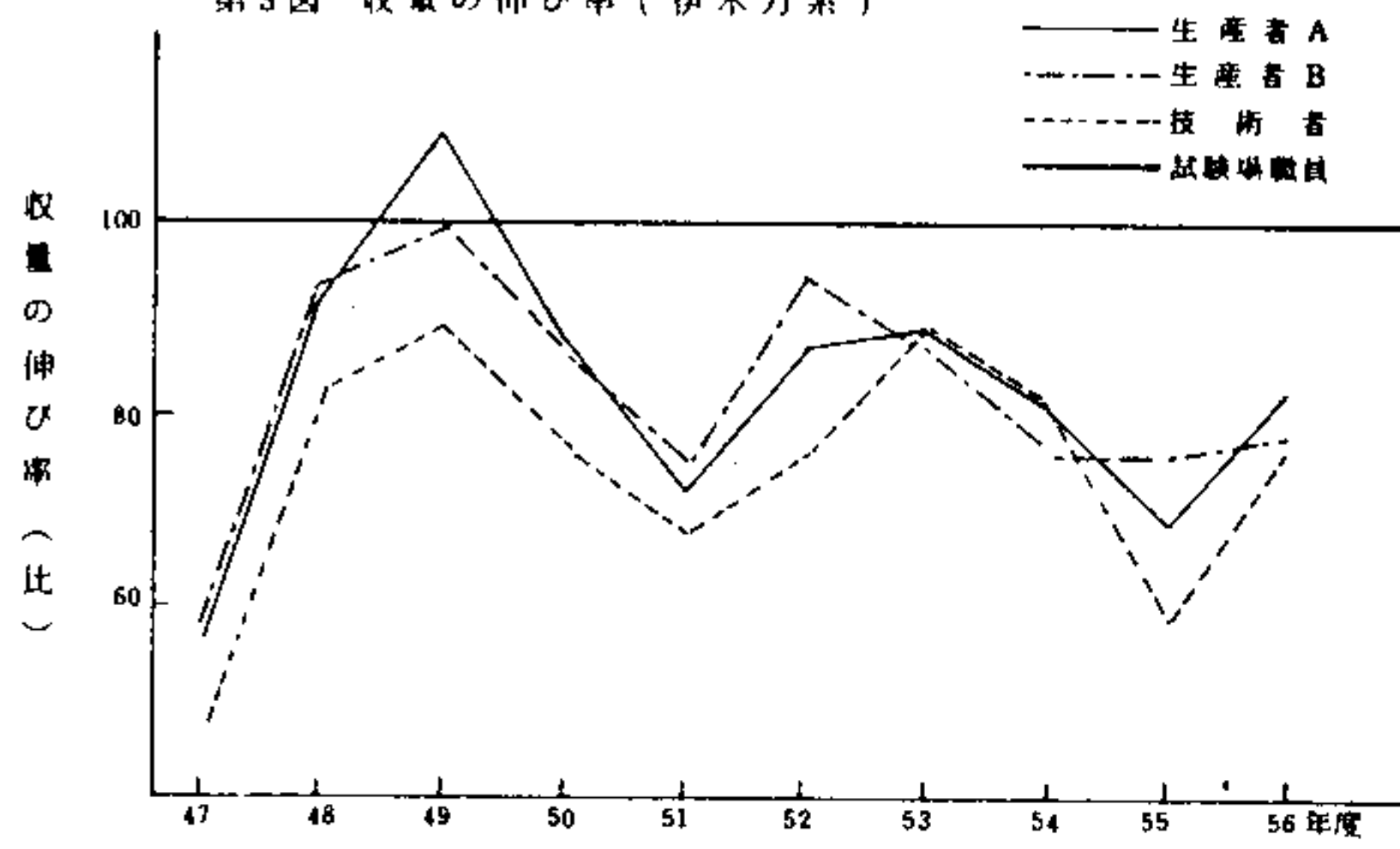
概

要

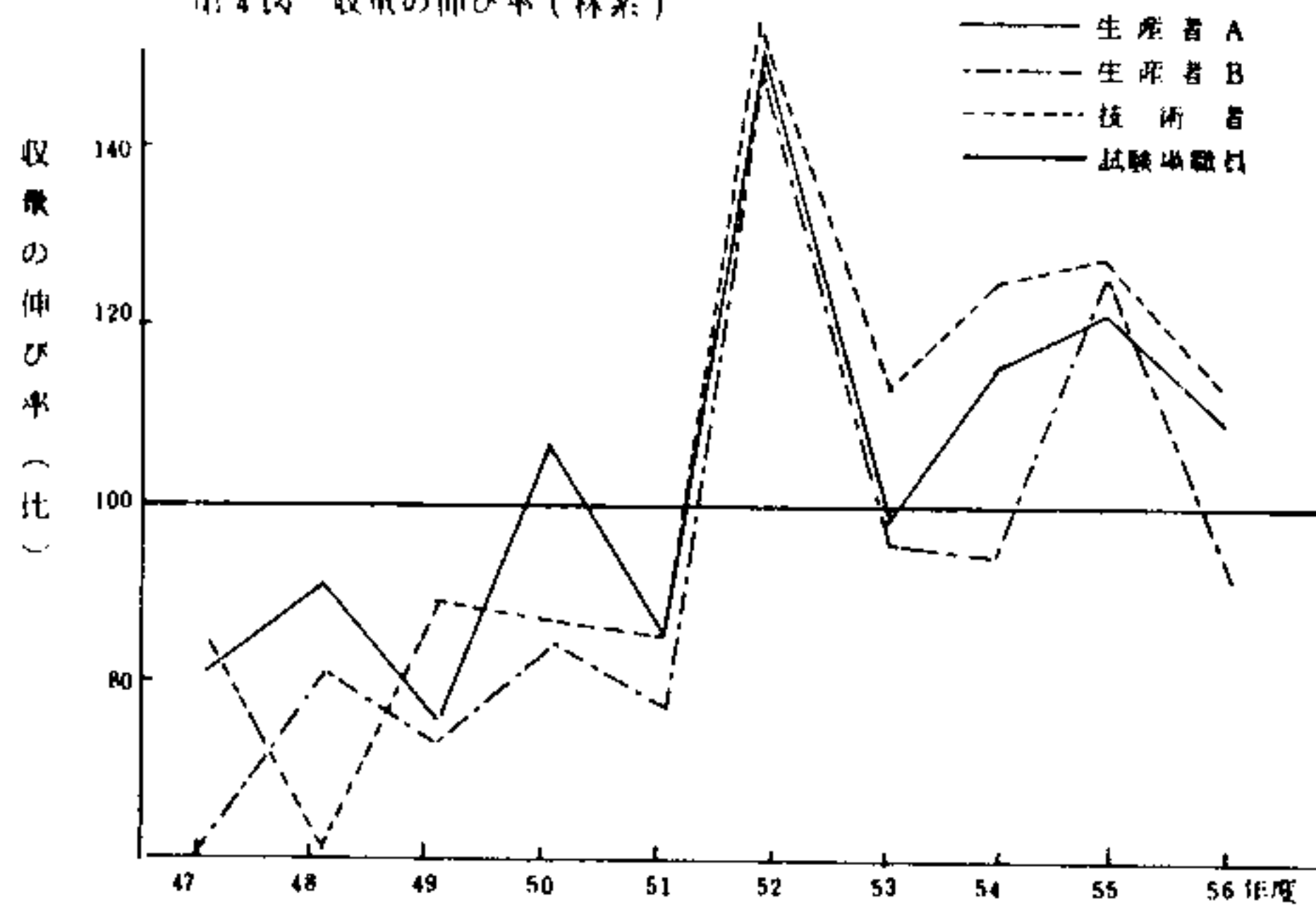
第2図 せん除葉率(林系)



第3図 収量の伸び率(伊木力系)



第4図 収量の伸び率(林系)



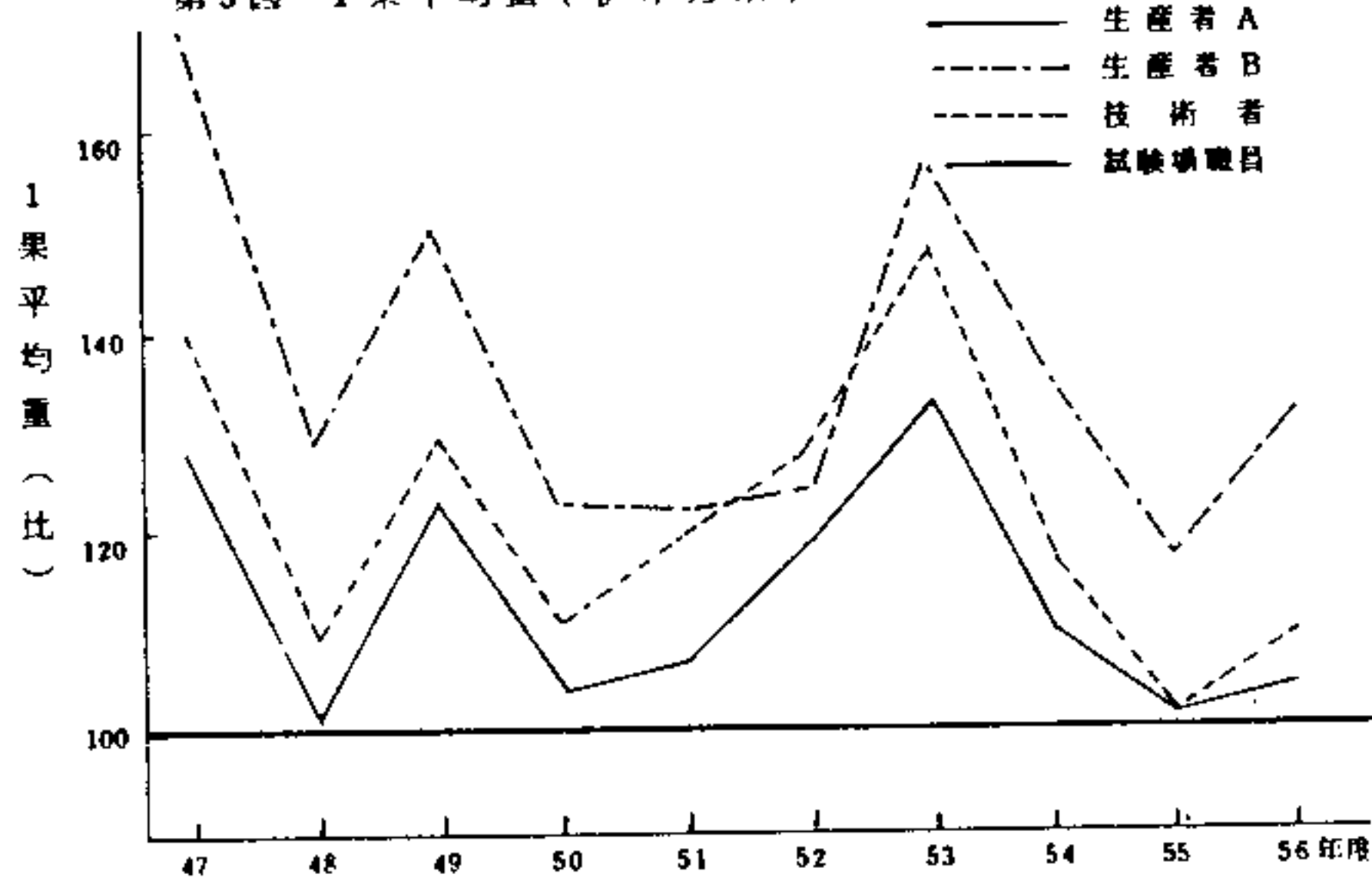
成

績

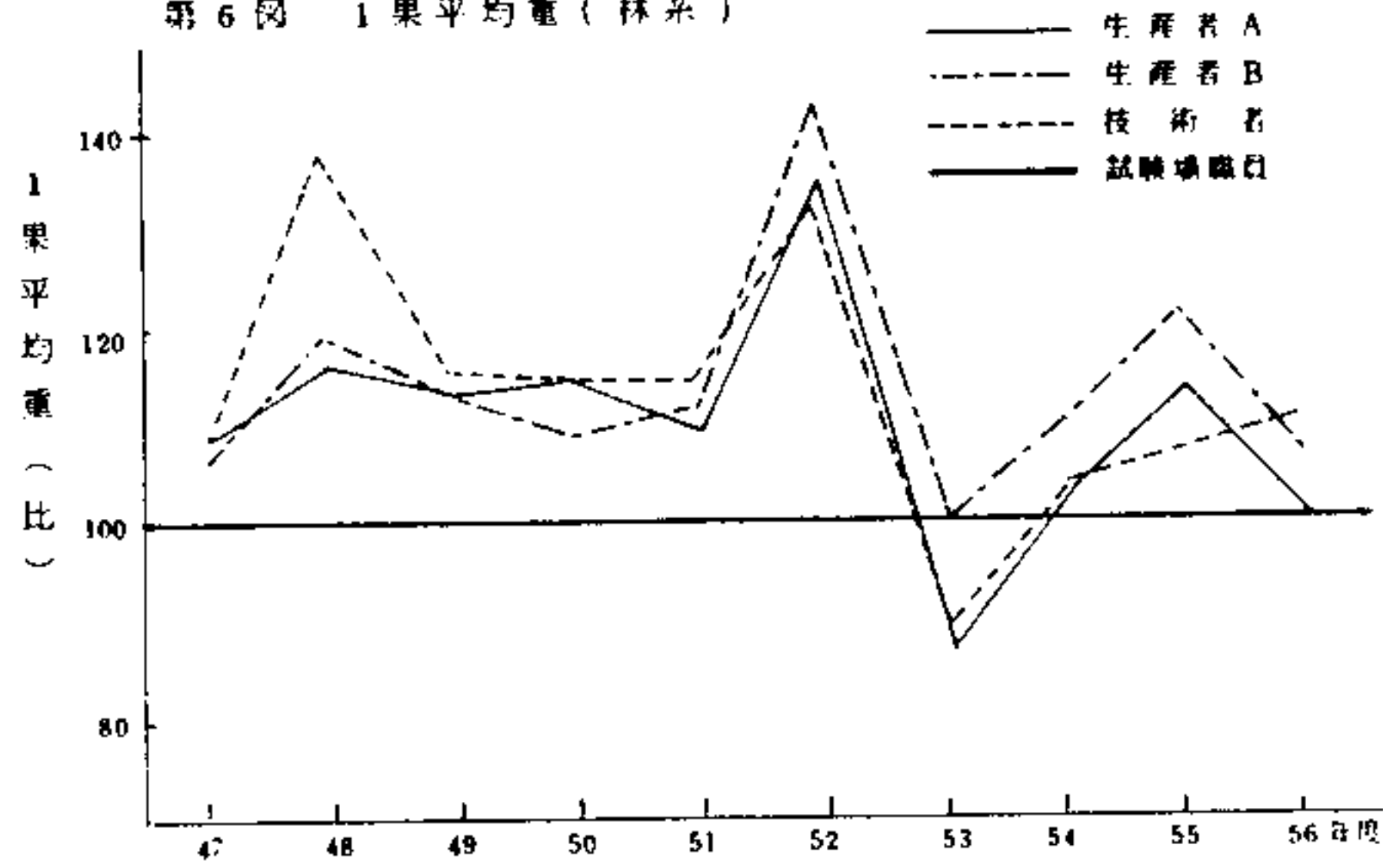
概

要

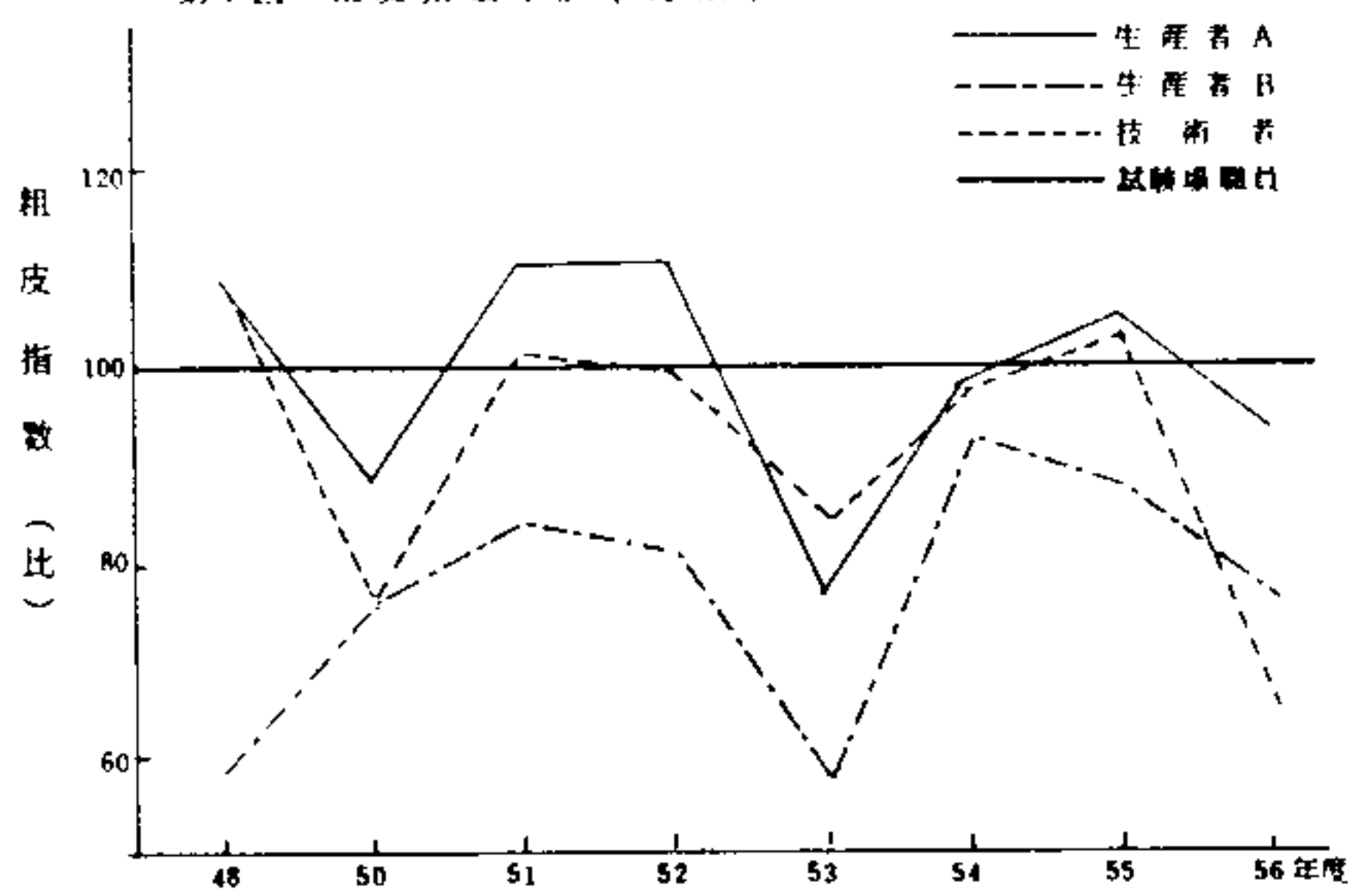
第5圖 1果平均重(伊木力系)



第6圖 1果平均重(林系)



第7圖 粗皮指数(伊木力系)



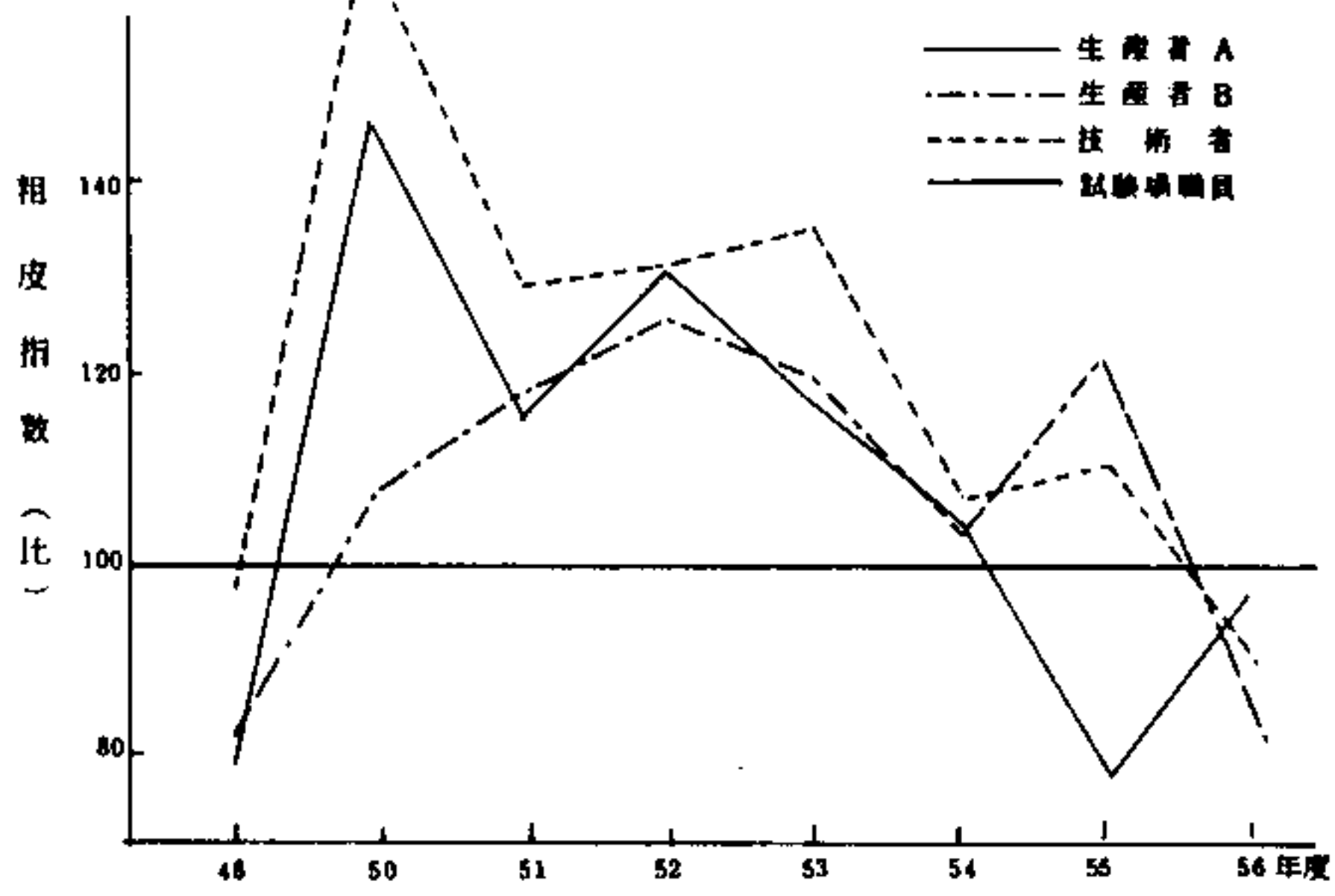
成

績

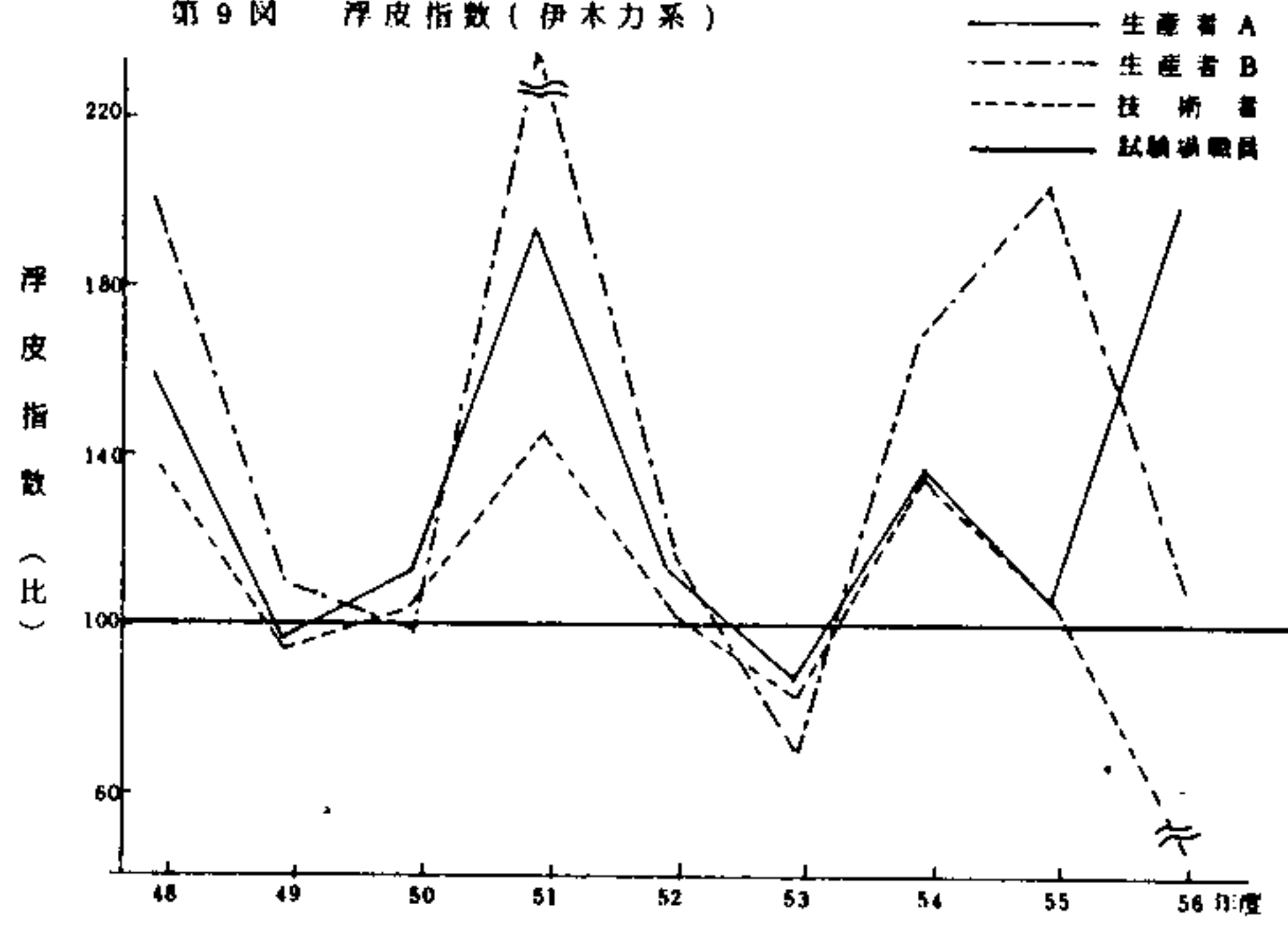
概

要

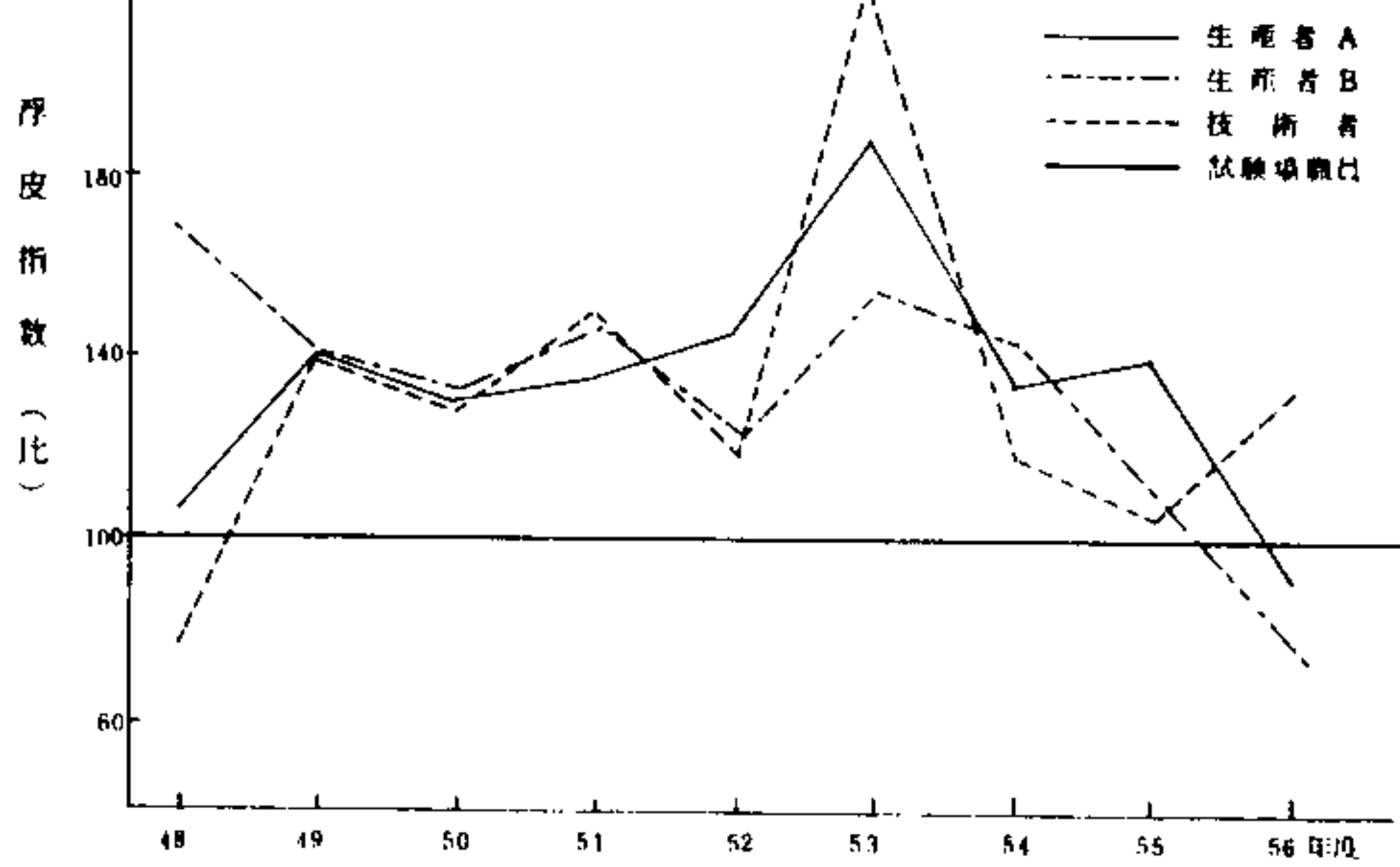
第8図 粗皮指数(林系)



第9図 浮皮指数(伊木力系)



第10図 浮皮指数(林系)



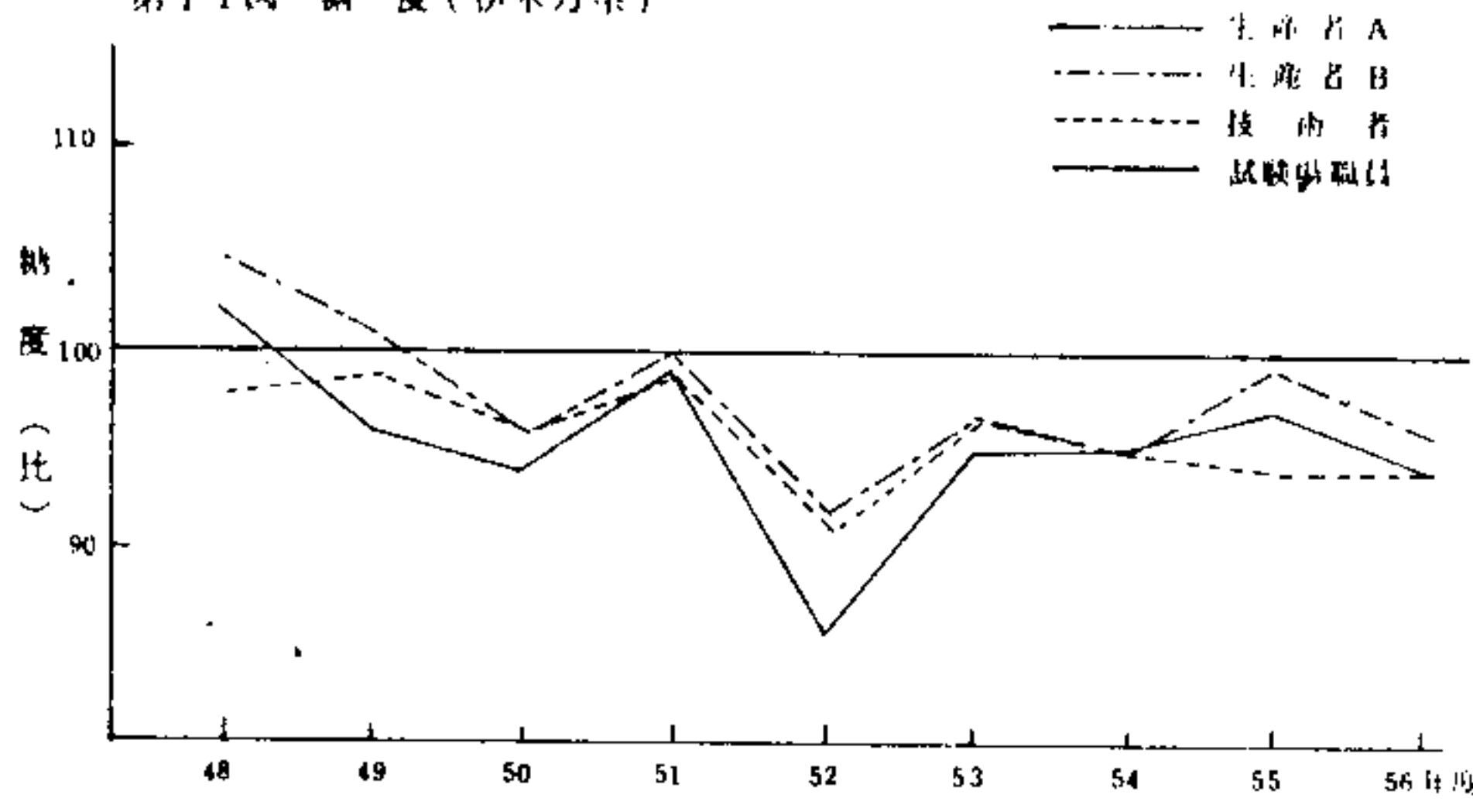
成

績

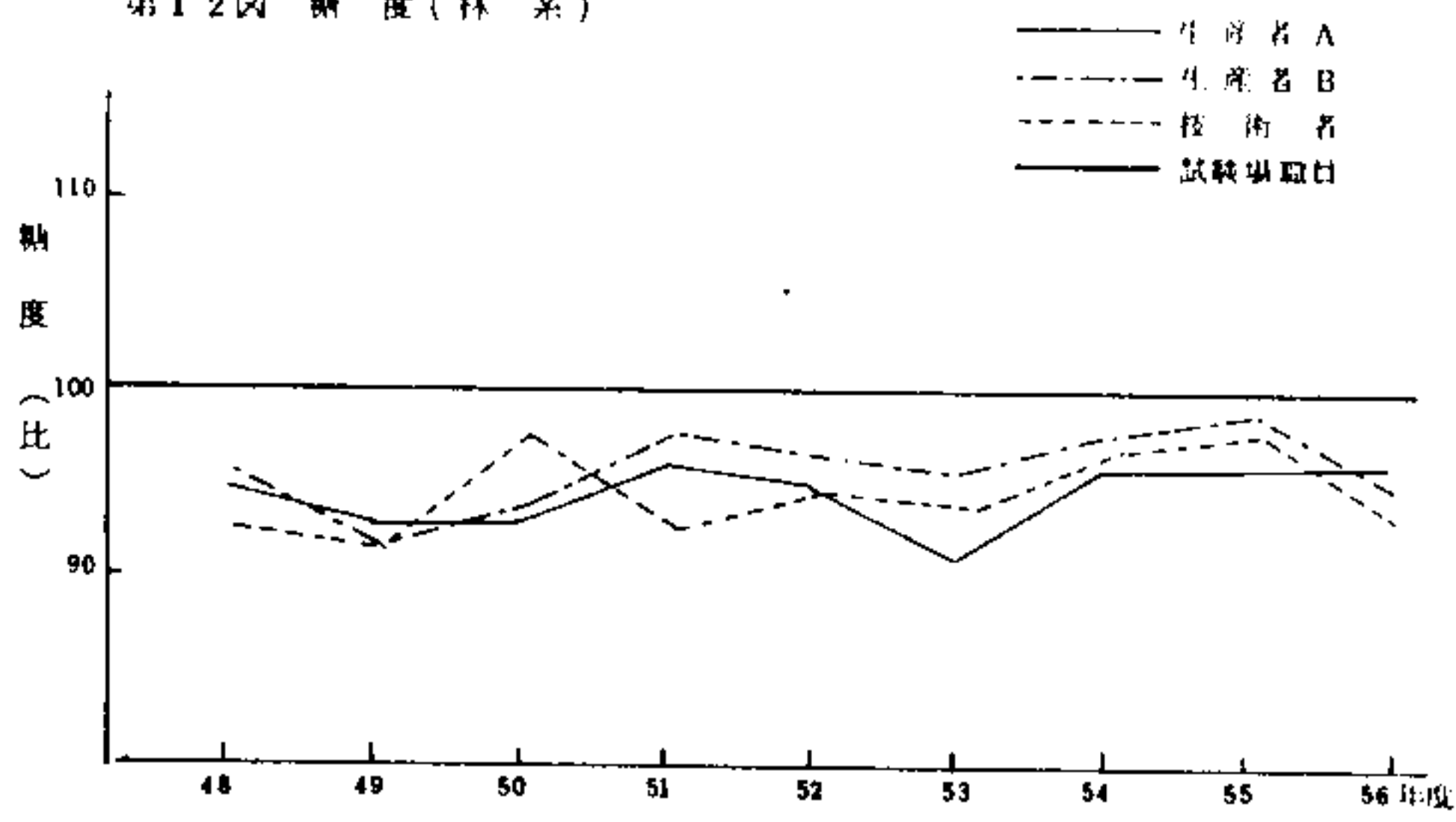
概

要

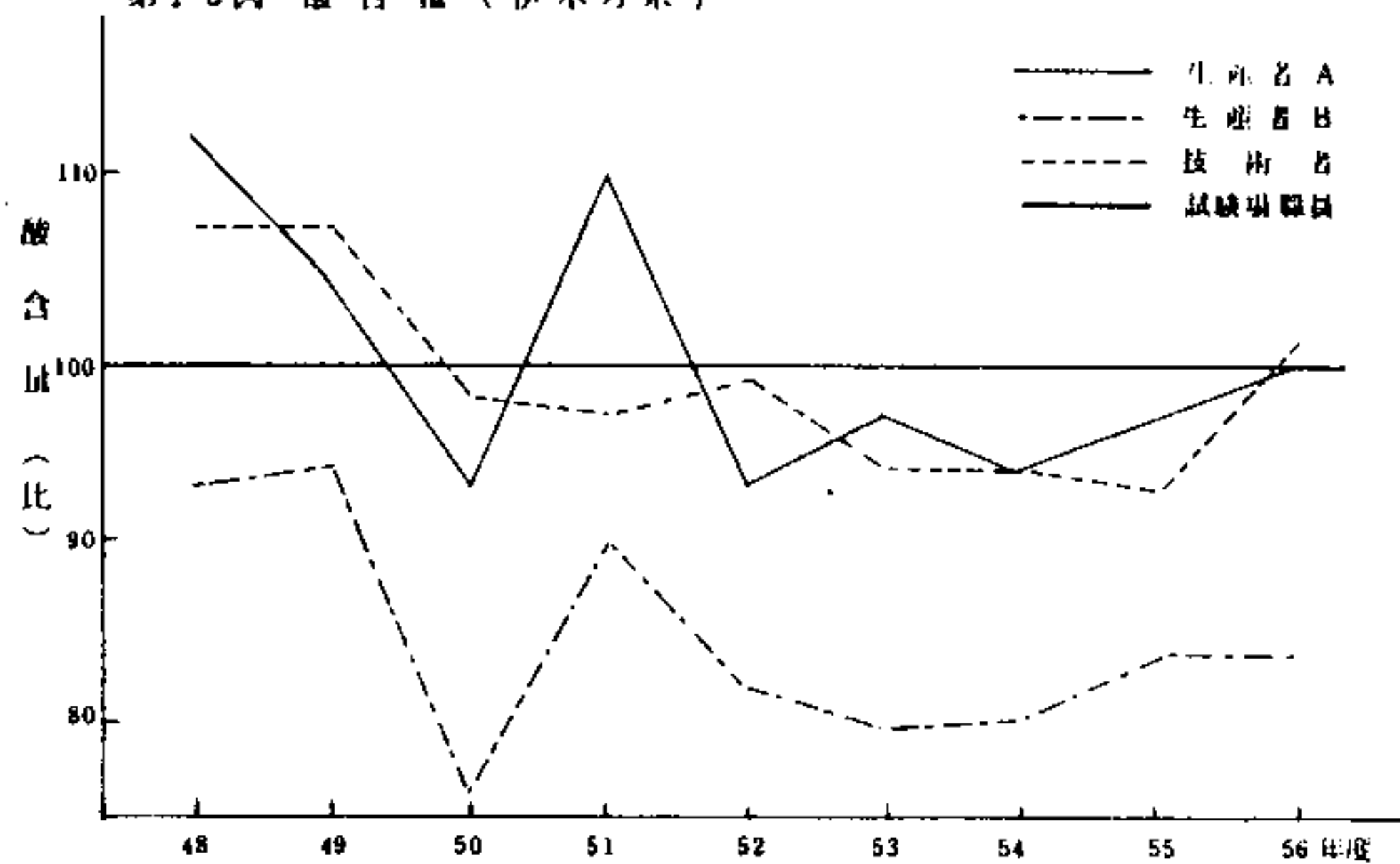
第11図 熟度(伊木刀系)



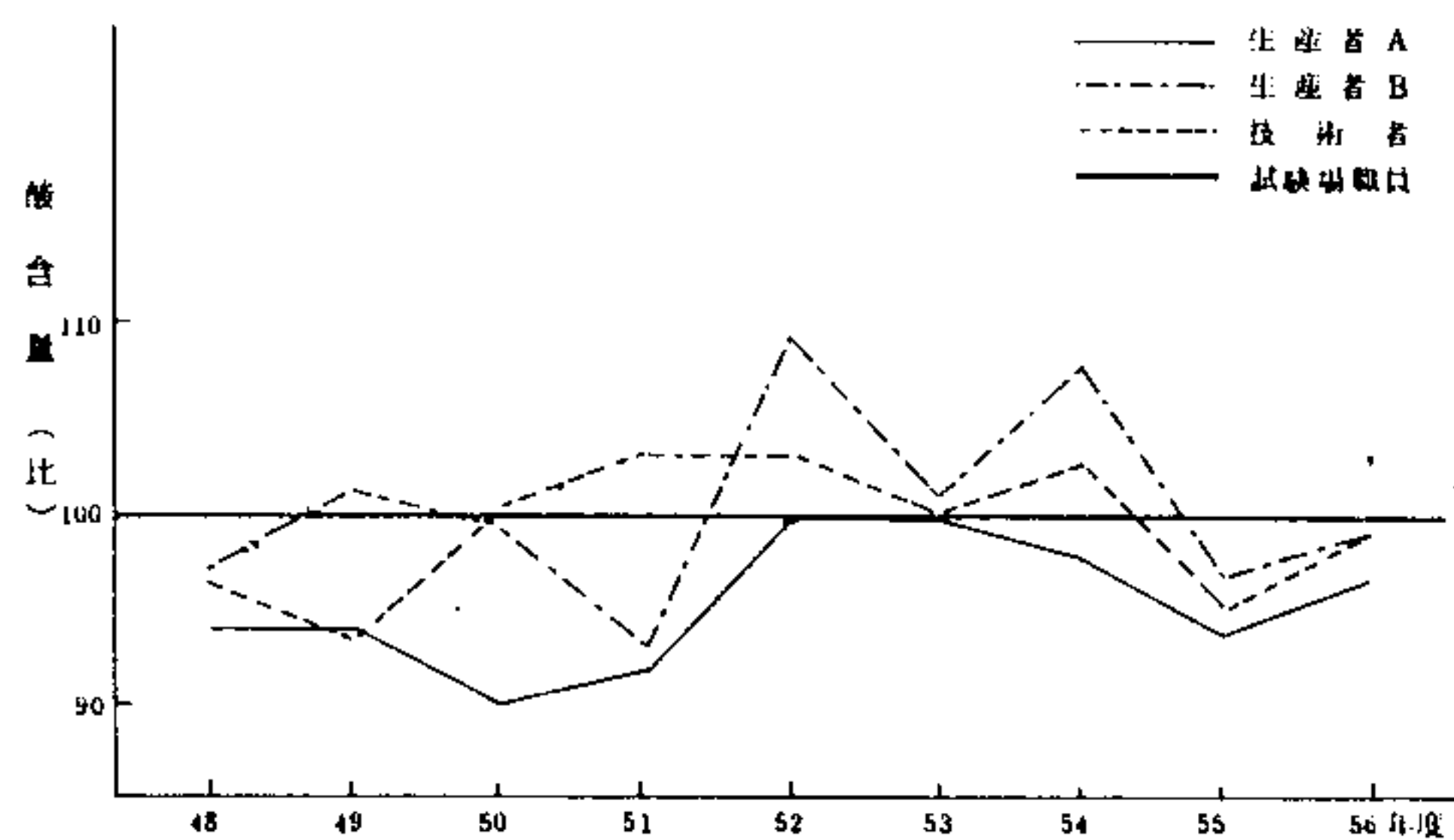
第12図 熟度(林系)



第13図 酸含量 (伊木力系)



第14図 酸含量 (林系)



普及上の留意点

樹は独立樹とし、枝構成を単純化する。

せん定は極力軽くし、摘果を強く 30 ~ 35 葉に 1 果とする。